

発達障害の育児応援

全国Vの高 事例描いた漫画完成

昨年八月の「全国高等学校漫画選手権大会(まんが甲子園)」で優勝した豊明市の豊明高校イラストレーション部が、発達障害の子どもが遭遇しがちなトラブルなどを解説した漫画を制作した。障害がある子の親から聞いたエピソードや、生徒なりに考えた解決策を盛り込んだ。漫画は障害児の家族などに配っている。

(坪井千隼)

発達障害は、コミュニケーションがうまく取れない高機能自閉症や学習障害(LD)などの総称。高機能自閉症の小学校高学年の長男がいる県内の母親が「同じ障害で悩む保護者の不安を減らしたい」と、同部に発達障害の解説漫画の制作を依頼。部員、OBら十六人が手分けして三カ月がかりで完成させた。作品は三十四冊。依

頼者の母親から聞いた長男の話を中心に、生徒たちが発達障害の関連書を調べるなどして書いた短編十五話からなる。

る。通学中にパニックになってしまったり話やクラスで嫌がらせやいじめを受ける話、友人に突然大声で話しかけて嫌がられる話など、発達障害のある子どもが生活を送る上で直面しそうな事例を描いた。「先生、両親など信頼できる人に相談する」など解決方法も記した。

まんが甲子園出場メンバーの一人で今春卒業した出口明奈さん(二〇)は「解決法は、昔いじめに遭った自分の経験も参考にした。誰が読んでも分かりやすい内容になったのでは」と話す。

依頼した母親は「具体的事例を漫画で読むことで、障害に悩む親は心を落ち着かせることができる。解決法も非常に参考になる」と喜ぶ。印刷費は同校が負担。漫画は残り部数に限りがあり、障害に悩む家族に限り、相談に応じる。



発達障害を分かりやすく解説する漫画を制作した豊明高イラストレーション部のメンバー＝豊明市の同校で